

## 創刊の辞

冷戦は終焉したけれども、新たな国際秩序は未だ形成されていない。わが国においては38年間つづいた自民党政権は崩壊した。90年代に入って、バブル経済の崩壊と金融不祥事、官官接待などが相次いで起き、「経済一流、政治三流」とか「日本の官僚は優秀である」といった言説に疑問が投げかけられている。明治以来、あるいは戦後形成されてきた政治や経済の枠組みが見直されようとしている。このような内外とも転換の時期に、日本で初めての学部である「経済科学部」が発足した意義は大きい。

文部省に提出した書類には「経済科学とはシステム科学を仲立ちとして経済学と情報科学を有機的に結合することをその課題としながら、コンピュータなどを用いて経済情報を的確に分析していくという経済科学の新たな方向性を開拓していく学問分野である」とある。実地審査の際に「経済科学とは何か」について議論が交わされた。パイオニアであるだけに、本学部は経済科学とは何かを明らかにする課題を背負っている。本学会誌『経済科学研究』への期待は大きい。

本学は広島商科大学としては1960年に発足し、1973年広島修道大学と大学名を改称した。経済科学部は商学部、人文学部、法学部につづく第4の学部にあたる。学部や大学院の設置は、文部省との折衝、学内調整など、大変な事業である。教職員の協力があって初めてできる。1952年の修道短期大学の設置以来、諸先輩の苦労の上に本学の現在があることを改めて想起する。今回は、藤田真治前学長、藤田楯彦前商学部長、川本明人前学長室長、そして児玉正憲経済科学部長の力が大きい。記してそのご苦労に感謝したい。しかし、初めは終わりではない。これから発展させていくことの方がもっと大きな仕事である。経済科学部のメンバーにその役割を期待し、創刊の辞としたい。

1997年10月1日

広島修道大学学長 市川太一